

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491600027	事業の開始年月日	平成23年11月1日	
		指定年月日	平成23年11月1日	
法人名	医療法人社団 愛友会			
事業所名	グループホームあいかわ			
所在地	(243-0303) 神奈川県愛甲郡愛川町中津2328			
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和7年11月10日	評価結果 市町村受理日	令和8年3月24日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームでは、当たり前前の生活を自分らしく、安心して過ごせるホーム（家）を目指しております。ご利用者様の今までの人生を大切に、温かい心で寄り添えるパートナーになれるよう、また、健康で過ごせるよう小さな体調の変化を見逃さないよう、日々努めます。緑多い自然に囲まれ、散歩の道すがら、出会う地域の方達との会話。ご利用者様のこれからの人生の良きパートナーになれるよう務めています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年12月9日	評価機関 評価決定日	令和8年3月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は小田急線「本厚木」駅または「海老名」駅から神奈中バスで約30分、「春日台1丁目」下車、徒歩約10分ほどの場所にあります。鉄筋造り3階建て建物の2・3階がグループホームであり、1階には同一法人の小規模多機能型居宅介護を併設しています。

<優れている点>

医療法人が主体となって運営しており、協力医療機関との連携体制の充実に努めています。これにより、利用者の健康管理のみならず、病気の早期発見や早期治療につなげる体制を維持しています。看取りの場面においても、利用者一人ひとりの状態や家族の意向を尊重し、最期まで寄り添ったきめ細やかな支援の提供に励んでいます。また、管理者は、家族が不安や困りごとを感じた際にいつでも速やかに相談できる窓口を明確にしています。これにより、些細な変化に対しても即応できる体制を構築し、家族との強固な信頼関係の維持に努めています。

周辺環境にも恵まれ、事業所前の諏訪神社境内では四季折々の花々を楽しむことができます。散歩コースでは近隣住民の庭に咲くバラを鑑賞できるなど、季節の移ろいを身近に感じながら穏やかに過ごせる環境づくりを継続しています。

<工夫点>

居間の机を1ヶ所にまとめ、利用者同士が自然に顔を合わせ、交流を深められる場づくりを行っています。誕生日会を対象利用者の当日に個別で実施し、特別感を感じることができる工夫をしています。また、キーボード演奏に合わせて歌を歌うことや、手作りのパズル・かるたなどを日々の生活に取り入れ、家庭的で温かい雰囲気の中で利用者が自分らしく過ごせるよう、日々の支援に努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームあいかわ
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念は、玄関に掲示しています。また、新入職員にも理念を説明し、理念を念頭に置き業務にあたる様説明しています。	「当たり前の生活を自分らしく安心して過ごせるホームを目指します」を理念に掲げ、利用者が「自分ならどう支援してもらいたいか」を最優先に考えた利用者本位の支援に努めています。また、独自に策定した6項目のケア理念を共有し、日々の関わりにおいて利用者一人ひとりの心に寄り添ったサービスを実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	どんど焼き・盆踊り・地区運動会・公民館まつり・子供みこし等、様々な行事に参加したり、また、当施設の行事には、参加をお願いしています。	自治会行事の盆踊りや秋祭りに参加しています。花笠音頭で使用する花笠は、職員と利用者が共に手作りしたものを地域へ貸し出すなど、地域の一員として相互に協力し合える関係づくりに努めています。また、キーボードやギター演奏、フラダンスのボランティアを招き、利用者が多様な交流を楽しめる機会を提供しています。中学校の体験学習も年1回受け入れており、地域に開かれた運営に取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の職場体験を受け入れしています。今年も3名の受け入れがあります。また毎月、傾聴ボランティアさんにも支援して頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回、開催しています。地域包括・地区・ご家族などに参加して頂き、事業所よりの報告、また、様々な情報交換や話し合いを行い、意見をサービス向上に行かせるよう努めています。	運営推進会議には各方面から多くの参加者があり、活動状況の報告や事業所内の課題について活発な協議を行っています。地域包括支援センターの専門的な知見を持つ職員からは、精神障害のある利用者への関わり方などについて具体的な助言を得ており、実際のケアに反映させることでサービスの向上につなげています。	地域住民や専門職との連携は図られていますが、今後は家族の参加も促進できるよう、家族への声かけのあり方を含め、より参加しやすくなるような工夫に努めることが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	申請時等施設の様子を報告したり、相談をしています。認定調査時には施設内の様子を案内しています。百寿や米寿等のお祝いを届けていただく際はこちらのいべんとに合わせて訪問していただきました。	生活保護を受給している利用者が多く、日々の生活において限られた条件はありますが、地域住民から寄せられる多くの寄付を活用し、個別の状況に応じた支援に努めています。愛川町高齢介護課や地域包括支援センターとは、運営推進会議などを通じて何でも相談し合える協力関係の維持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践をしています。玄関の施錠は、やむを得ず、安全のために実施しています。また3ヶ月ごとに身体拘束防止委員会を開催しています。	3ヶ月に1回、身体拘束防止委員会を開催し、運営方針に掲げる「拘束をしないこと」の実践に取り組んでいます。安全確保のためにやむを得ずセンサーを使用する場面もありますが、「身体拘束ゼロ」対策マニュアルに基づき、フロアごとに研修を実施するなど、身体拘束をしない支援の継続を大切にしています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年に2回の研修を実施しています。「虐待の目チェックリスト」等のような行為が虐待にあたるのか周知に努めています。また3ヶ月ごとに虐待防止委員会を開催しています。	3ヶ月に1回、虐待防止委員会を開催しています。各フロアごとに月1回研修を行い、どのような行為が虐待に該当するのか、職員間で話し合い理解を深めることに努めています。虐待を発見した際の対応方法についても周知を図り、虐待のないサービスを提供できるよう取り組んでいます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用しているご利用者様がいらっしゃいます。月に一度後見人が面会に来られるため、状況等をお伝えいたします。また金銭面での状況確認も都度一緒にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約時には、十分な説明を行い、理解・納得を得られるよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	様々な意見を気軽に出せるよう玄関に意見箱を設置しています。また電話や口頭にて得られた意見や要望に対し、管理者・職員ともに情報を共有し、運営に反映するようにしています	家族から困りごとや相談があった際に、いつでも話し合いができるよう配慮しています。サービス提供中は電話にすぐ対応できない場合もあるため、管理者の携帯電話番号を伝えることで、速やかに連絡・対応ができる体制を整えています。家族との連携を大切にし、安心感につながるよう取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンス会議などの時に職員の意見や要望を聞いています。また、普段から話しやすい環境作りに努めています。	管理者の携帯電話番号を職員に周知し、判断に迷う事案が発生した際には、いつでも連絡ができる体制を整えています。また、毎月のケアカンファレンスにおいて職員の意見を聴取するとともに、必要に応じて個人面談も実施するなど、現場の声を運営に活かせるよう努めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々に評価を行い、努力している職員にはきちんとした評価をすることで、仕事に対する意欲をもって貰えるよう努めています。	管理者は、職員一人ひとりが向上心を持って働けるよう、日頃の努力や成果の把握に努め、意欲を持って業務に取り組める環境づくりを進めています。外国人職員の採用にあたっては、通勤の利便性を考慮して近隣のアパートを社員寮として整備するなど、安心して働ける体制の構築に励んでいます。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人は職員の資格取得を推奨していません。職場では、ユニット会議等の折に勉強会を実施しています。その他、外部や福祉協議会等で開催される研修を掲示し、参加したい職員には勤務表の変更も考慮し、参加出来る様支援しています。	職員が勤務時間内に研修を受講できるよう配慮し、全職員が受講できる体制づくりに取り組んでいます。資格取得にかかる費用については事業所が3割を負担しています。また、オンラインで実施する基礎研修については、事業所が全額を負担するなど、スキルアップを支える環境の構築に努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の介護施設を訪問したり、社会福祉法人等代表者会議に出席したり、交流や情報交換をしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前からアセスメント情報を把握したうえで、本人が安心して暮らすことができるように努めています。また、初期に築く関係は大変重要なことなので、努力しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始時には、ご本人やご家族の話に耳を傾け、不安解消や要望に沿うことができるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所時には、ご本人やご家族の話に耳を傾け、真のニーズを見極めることができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	立場にこだわらず、家で暮らしているような家庭的な雰囲気作りに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	感染症対策により面会時間や人数に制限は設けてありますが、事前にご連絡をいただく対応としております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	身寄りのない方でも以前交流のあった近隣住民等にお声掛けをし、面会にきていただく機会を構築しています。	日頃の会話を大切にしながら、利用者一人ひとりの思いや意向をくみ取ることを心がけています。丁寧に向き合い、その人らしく笑顔で過ごしてもらえるよう支援しています。得た情報は職員全員で共有し、より良い支援につなげるよう取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや散歩等の声掛けは、ご利用者全員にしています。ご利用者が孤立しない支援を心掛けています。また相性等を考慮し席決めや交換を実施しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了時には、困った時にはいつでも相談に来てくれるよう声掛けしています。また、契約終了後にも施設に立ち寄っていただき、ご本人の近況を話して頂いたりという方が、複数おられます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向に添えるよう、職員間で把握するよう努め、その人らしい暮らしが出来るよう支援しています。	日頃から利用者との会話を大切にし、会話の中で利用者の思いや希望を把握するよう努めています。一人ひとりと丁寧に向き合い、その人の思いや意向をくみ取ることで、利用者が笑顔で過ごせるよう支援しています。知り得た情報はタブレット型端末に入力し、職員全員で共有することで、日々のケアに活かせる体制を整えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族やサービス事業者に前もって情報を聞き、サービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活パターンに合わせた対応に努めています。個人記録を活用しながら把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月に一度は、カンファレンスを行い、一人ひとりのケアを振り返り、現状に即した介護計画を作成しています。	月1回カンファレンス会議を行っています。管理者、ケアマネジャー、ユニットごとの計画作成担当職員が中心となり、利用者や家族の意見、医師の見解を踏まえた見直しを行っています。一人ひとりの状態の変化を捉え、現状に即したケアプランを作成できるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践等は、毎日、個人記録に記しています。また、毎日申し送りを行い、職員間で情報を共有しながら、ケアの実践や介護計画の見直しに活かせるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々の特性に合わせて対応をしています。収集癖等では御本人の不安感にも考慮し、衛生面を保ちながら様々な対応を実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議等の折に、地域の方々から様々な事を伺ったりして、ご利用者が暮らしを楽しんで貰えるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	全体往診や個人往診など定期的実施されており、ご家族の希望なども伺いながら支援しています。	同法人より、週1回の内科医の訪問診療や、週1回の歯科衛生士による訪問、月2回の医師の診療を実施しています。近隣の医療機関とも連携し、定期的に情報交換を行う体制を構築しています。皮膚科などの専門外来については、家族による通院が難しい場合には職員が同行するなど、必要な受診をサポートし支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診時には、医師、訪問看護時には看護師に相談しながら、ご利用者が適切な医療を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご利用者と面会を度々行い、早期退院に向けて、病院関係者との情報交換や相談を行い、密な連絡を取り合っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族と状況を把握しながら、当施設でできることを説明したうえで、対応を行なっています。また、柔軟に対応できるよう取り組んでいます。	複数の看取りの実績があります。利用者や家族、医師、看護師、職員皆で十分な話し合いを行い、一人ひとりに合わせた支援に努めています。終末期には夜間の面会も対応し、利用者や家族に寄り添った支援を行っています。職員は実践を通して学びを深め、終末期ケアへの心がまえを身につけるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	すべての職員が実践力を身に付けているかどうかはわかりません。研修や勉強会で身に付けていきたいと思っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防設備点検時における避難訓練を実施しています。また、消防署立ち入り調査もあります。	防火訓練や避難訓練、感染症および自然災害を想定したBCP（業務継続計画）訓練を年に7回に分けて行い、非常時に備えています。実際の訓練で、利用者の避難経路に足元の危険な箇所があるといった課題を把握した際は、踏み台を設置するなどの具体的な対策を講じています。訓練での反省点を活かし、より安全な避難体制を構築できるよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応には気を使っています。	人格を尊重することの難しさを意識し、特に声かけには細心の注意を払っています。トイレ誘導の際には「こちらへどうぞ」と周囲に配慮した声かけを行うなど、プライバシーの確保に努めています。また、定期的に接遇研修や勉強会を開催し、学んだ内容を日々の支援に活かすよう取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご自分で出来ることは、時間が掛かってもなるべくして頂くよう支援しています。小さなことでも、ご自分で決めて頂くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースは、大切にしています。なるべく希望にかなうよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容や入浴時の着替え等は、ご利用者に決めて貰えるよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	下膳はご利用者様自身に行っていただきます。また食事形態も考慮しています。時間がかかってもその方のペースでお食事をしていただきます。	日常的には宅配食を利用し、健康に配慮した食事を提供しています。ファストフードを好む利用者が多いため、定期的にテイクアウトを取り入れるなど、楽しみのある食生活を支えています。食欲が低下している利用者には個別に意向を確認し、「寿司が食べたい」という要望に応えることで、食欲の増進につながる事例もあり、一人ひとりの思いに寄り添った支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事摂取量や水分量は毎食後、記録に残し、一日のなかでバランスが摂れる様、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとりの状態にあった口腔ケアを実施しています。また、訪問歯科の指導も実施しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄表を記録し、排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄出来る様、支援しています。	排泄状況はタブレット型端末で記録し、職員間で情報共有することで、個々に合わせた支援を行っています。排便コントロールが難しい利用者には医師と連携して投薬を検討するなど、適切な対応に努めています。また、排泄を良好な状態に保つよう、水分摂取には十分配慮し、健康維持につなげるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動をしながら、自力排便を促すよう支援していますが、薬でコントロールされている方は、毎日、注意を払っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴剤など、なるべくご利用者が楽しんで貰えるよう工夫しています。しかし、時間帯に関しては、午後に実施しています。その中での時間は希望に添えるようにしています。	基本的には週2回、1日3名ずつ入浴を実施しています。同性介助を行い、利用者と職員が1対1で向き合える時間を確保することで、リラックスして本音を話す交流の場となるよう支援しています。また、日常的には入浴剤を使用し、冬至には柚子湯を用意するなど、季節を感じながら入浴を楽しめるよう取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼間は適度に活動していただいたりして、夜間気持ちよく安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員間で、個々の薬の情報は共有しており、変更時には、情報を伝え、症状の把握に努めています。また、服薬時にはダブルチェックを行い、間違いのないよう気を付けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりに合った楽しみや気分転換に添えるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的には、散歩や外気浴をしています。ご家族との外出、地域の方との外出は、ご本人の希望を把握したうえで、協力しています。	日常の散歩コースでは、近隣の人たちと交流し、会話を楽しむ機会を支援しています。季節ごとに初詣、花見ドライブ、バラ見学、地区盆踊り会や秋祭りなどへの参加を通じ、積極的に外出の機会を設けるよう努めています。地域とのつながりを大切にしながら、季節の変化を感じる支援を実践しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	おこずかいは、施設にてお預かりしていますが、購入したい物があつたりした時には購入をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙の支援は、希望に添えるよう支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間や居室の清掃は、毎朝、職員とご利用者で行い、清潔に保てる様にしてあります。壁面には、レク製作や行事写真などを飾ったり、季節の花を飾ったりして、居心地良く過ごせるよう工夫しています。	リビングの大きな窓からは、隣接する神社の木々を眺めることができ、春には桜を鑑賞できる環境にあります。室内には利用者と職員が協力して作成した貼り絵、折り紙のくす玉や千羽鶴、花笠のほか、レクリエーション時の写真を展示しています。展示会場のように多くの作品を飾ることで、日々変化を楽しみながら居心地よく過ごせる空間づくりに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者同志、リラックスされ、話に興じられている時には、見守っていたり、一人、ぼつんとしておられるときなどには、職員が声掛けしたりしています。また、居室で趣味のことをしている時は、時々見守りのため、訪室しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室では、思い思いに趣味の事をされていたり、テレビ観たり、読書をされています。また、使い慣れたものや好みのものは、自由に使っていただいています。	ゆったりとした広さと大きな窓がある明るい造りを活かし、利用者が落ち着いて過ごす環境づくりに努めています。本人の意向を尊重し、記念写真や肖像画、仏壇など、愛着のある物品の持ち込みを配慮しています。故郷の風習である嫁入り道具の羽子板を飾る利用者があるなど、なじみ深い大切な品を身近に置くことで、一人ひとりが自分らしく過ごすことのできる居室づくりを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの出来る事を把握し、自立に向けた支援をしています。日々の掃除や食事など、一人ひとりが、職員と共に、共同で行っています。		

事業所名	グループホームあいかわ
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念は、玄関に掲示しています。また、新入職員にも理念を説明し、理念を念頭に置き業務にあたる様説明しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	どんど焼き・盆踊り・地区運動会・公民館まつり・子供みこし等、様々な行事に参加したり、また、当施設の行事には、参加をお願いしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の職場体験を受け入れしています。今年も3名の受け入れがあります。また毎月、傾聴ボランティアさんにも支援して頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回、開催しています。地域包括・地区・ご家族などに参加して頂き、事業所よりの報告、また、様々な情報交換や話し合いを行い、意見をサービス向上に行かせるよう努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	申請時等施設の様子を報告したり、相談をしています。認定調査時には施設内の様子を案内しています。百寿や米寿等のお祝いを届けていただく際はこちらのいべんとに合わせて訪問していただきました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践をしています。玄関の施錠は、やむを得ず、安全のために実施しています。また3ヶ月ごとに身体拘束防止委員会を開催しています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年に2回の研修を実施しています。「虐待の目チェックリスト」等のような行為が虐待にあたるのか周知に努めています。また3ヶ月ごとに虐待防止委員会を開催しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用しているご利用者様がいらっしゃいます。月に一度後見人が面会に来られるため、状況等をお伝えいたします。また金銭面での状況確認も都度一緒に行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約時には、十分な説明を行い、理解・納得を得られるよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	様々な意見を気軽にらせるよう玄関に意見箱を設置しています。また電話や口頭にて得られた意見や要望に対し、管理者・職員ともに情報を共有し、運営に反映するようにしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンス会議などの時に職員の意見や要望を聞いています。また、普段から話しやすい環境作りに努めています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々に評価を行い、努力している職員にはきちんとした評価をすることで、仕事に対する意欲をもって貰えるよう努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人は職員の資格取得を推奨しています。職場では、ユニット会議等の折に勉強会を実施しています。その他、外部や福祉協議会等で開催される研修を掲示し、参加したい職員には勤務表の変更も考慮し、参加出来る様支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の介護施設を訪問したり、社会福祉法人等代表者会議に出席したり、交流や情報交換をしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前からアセスメント情報を把握したうえで、本人が安心して暮らすことができるように努めています。また、初期に築く関係は大変重要なことなので、努力しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始時には、ご本人やご家族の話に耳を傾け、不安解消や要望に沿うことができるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所時には、ご本人やご家族の話に耳を傾け、真のニーズを見極めることができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	立場にこだわらず、家で暮らしているような家庭的な雰囲気作りに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	感染症対策により面会時間や人数に制限は設けてありますが、事前にご連絡をいただく対応としております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	身寄りのない方でも以前交流のあった近隣住民等にお声掛けをし、面会にきていただく機会を構築しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや散歩等の声掛けは、ご利用者全員にしています。ご利用者が孤立しない支援を心掛けています。また相性等を考慮し席決めや交換を実施しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了時には、困った時にはいつでも相談に来てくれるよう声掛けしています。また、契約終了後にも施設に立ち寄っていただき、ご本人の近況を話して頂いたりという方が、複数おられます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向に添えるよう、職員間で把握するよう努め、その人らしい暮らしが出来るよう支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族やサービス事業者に前もって情報を聞き、サービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活パターンに合わせた対応に努めています。個人記録を活用しながら把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月に一度は、カンファレンスを行い、一人ひとりのケアを振り返り、現状に即した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践等は、毎日、個人記録に記しています。また、毎日申し送りを行い、職員間で情報を共有しながら、ケアの実践や介護計画の見直しに活かせるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々の特性に合わせて対応をしています。収集癖等では御本人の不安感にも考慮し、衛生面を保ちながら様々な対応を実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議等の折に、地域の方々から様々な事を伺ったりして、ご利用者が暮らしを楽しんで貰えるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	全体往診や個人往診など定期的実施されており、ご家族の希望なども伺いながら支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診時には、医師、訪問看護時には看護師に相談しながら、ご利用者が適切な医療を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご利用者と面会を度々行い、早期退院に向けて、病院関係者との情報交換や相談を行い、密な連絡を取り合っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族と状況を把握しながら、当施設でできることを説明したうえで、対応を行なっています。また、柔軟に対応できるよう取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	すべての職員が実践力を身に付けているかどうかはわかりません。研修や勉強会で身に付けていきたいと思っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防設備点検時における避難訓練を実施しています。また、消防署立ち入り調査もあります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応には気を使っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご自分で出来ることは、時間が掛かってもなるべくして頂くよう支援しています。小さなことでも、ご自分で決めて頂くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースは、大切にしています。なるべく希望にかなうよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容や入浴時の着替え等は、ご利用者に決めて貰えるよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	下膳はご利用者様自身に行っていただきます。また食事形態も考慮しています。時間がかかってもその方のペースでお食事をしていただきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事摂取量や水分量は毎食後、記録に残し、一日のなかでバランスが摂れる様、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとりの状態にあった口腔ケアを実施しています。また、訪問歯科の指導も実施しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄表を記録し、排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄出来る様、支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動をしながら、自力排便を促すよう支援していますが、薬でコントロールされている方は、毎日、注意を払っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴剤など、なるべくご利用者が楽しんで貰えるよう工夫しています。しかし、時間帯に関しては、午後には実施しています。その中での時間は希望に添えるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼間は適度に活動していただいたりして、夜間気持ちよく安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員間で、個々の薬の情報は共有しており、変更時には、情報を伝え、症状の把握に努めています。また、服薬時にはダブルチェックを行い、間違いのないよう気を付けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりに合った楽しみや気分転換に添えるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的には、散歩や外気浴をしています。ご家族との外出、地域の方との外出は、ご本人の希望を把握したうえで、協力しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	おこずかいには、施設にてお預かりしていますが、購入したい物があつたりした時には購入をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙の支援は、希望に添えるよう支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間や居室の清掃は、毎朝、職員とご利用者で行い、清潔に保てる様にしていきます。壁面には、レク製作や行事写真などを飾ったり、季節の花を飾ったりして、居心地良く過ごせるよう工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者同志、リラックスされ、話に興じられている時には、見守っていたり、一人、ぼつんとしておられるときなどには、職員が声掛けしたりしています。また、居室で趣味のことをしている時は、時々見守りのため、訪室しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室では、思い思いに趣味の事をされていたり、テレビ観たり、読書をされています。また、使い慣れたものや好みのものは、自由にいただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの出来る事を把握し、自立に向けた支援をしています。日々の掃除や食事など、一人ひとりが、職員と共に、共同で行っています。		

2025年度

事業所名 グループホームあいかわ

作成日： 2026年 3月 24日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	I	地域住民や専門職との連携は図られていますが、今後は家族への参加も促進できるよう、家族への声掛けのあり方を含め、より参加しやすくなるような工夫に努めることが期待されます。	地域住民、専門職の方の出席に加え、ご家族様にも参加をしていただく。	お知らせのお手紙や電話、ご来所いただいた時の声掛け等で周知に努める。	6ヶ月